

放送学科

- Q** 実習施設にはどのようなものがありますか？ また、その施設では実際にどのような授業が行われているのか、教えてください。
- A** 施設としてはデジタルハイビジョン・テレビスタジオ3つ、5.1chデジタル仕様などの録音スタジオ6つ、多数のビデオ編集室のほか、ビデオ収録車やCDライブラリーなどがあります。それぞれのスタジオは現在のテレビ局・ラジオ局とほぼ同じ機能を持っています。また、すべてをデジタルネットワークでつなぎ、多様な実習が行えるようになってきました。スタジオを使っただけの実習は、1年次から行われ、企画から番組完成までのプロセスをくり返し実作しながらトレーニングしていきます。さらには、受講生の個性的な企画も取り上げ、それぞれの創造力を引き出すよう配慮しています。また、TVカメラをはじめとして、照明設備、音声調整卓の操作などの技術面の実習、屋外でのロケーションや取材・音楽録音の実習なども行います。
- Q** 1年次後半から「5専攻」に分かれるとのことですが、希望すればどの専攻にでも入れるのでしょうか？入学時から分らないのですか？
- A** 1年次後半からの「ラジオ制作」「テレビ制作」「音響技術」「映像技術」「CM」のうち1つを必修として、2、3年次と継続して履修します。これは、登録を行えば、原則として誰でも希望する専攻に入ることができます。また、5つの専攻とは別に「脚本」「アナウンス」について技術を身につける段階制の実習を2年次からあわせて学ぶことができます。放送は間口の広い分野ですから、本学科では1年次前半にさまざまな角度から基礎的な知識・技術を身につけた上で、1年次後半からどの専攻で学習するのか明確な目標を定めるようにしています。
- Q** 「作品研究」「放送特殊研究」という科目名がたくさんあるのですが、これはどのような内容なのですか？
- A** 「作品研究」は、実際に放送されたドラマ、ドキュメンタリー、アニメ、バラエティやCM作品などをさまざまな角度から分析・検証する科目です。「放送特殊研究」は、日々変化する放送の世界について、「ドラマ論」「プロデュース研究」「テレビ報道の研究」「デジタル放送」「広告表現」など、放送の現状を意識したさまざまな研究テーマのもとに学ぶ科目です。「作品研究」「放送特殊研究」ともに、3年次からの履修となりますが、2年次を対象に開講されている科目も一部あります。
- Q** アナウンサー志望者にとって特別な授業はありますか？
- A** 音声による日本語表現の基礎を学ぶ「アナウンスⅠ」、アナウンス技能の修得と話し手としての自己研鑽をめざす「アナウンスⅡ」といった段階制の実習があります。これは専攻とは別に学習することができるものです。また、基礎的な力をつける「アナウンス演習」、言語のしくみを学ぶ「言語学（放送）」といった関連科目も開講されています。その他にも多種・多様な実習の機会があり、より専門的な能力を身につけられるようになってきました。